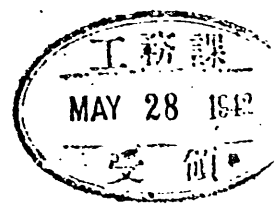


特別委員会意見

電代第...

新神戸、昭和十七年五月廿六日

戦時標準船A型ニ對スル希望意見



一 支水隔壁ノ位置ハ全般的ニ再検討ヲ加ヘ適當ニ之ヲ變更スルコト（船首隔壁ハ前方ニ機關室ハ全体ヲ後方ニ船尾艙内隔壁ハ前方ニ移ス要アルベシ）

二 機關室後部隔壁（甲板間）ニ設ケタル出入口ヲ廢止シ機關室兩側ノ場所

ニハ清水槽其ノ他必要ナル場所ヲ後部ニ設ケ前方ヲ側炭庫トナスコト

三 汽機室二重底ノ高サヲ其ノ前後部ト同等ニスルコト

四 「シャフトトンネル」ノ高サハ出來得ル限り低クシ同時ニ「テイルシャフト」抽出ニ差支ナキ様構造上考慮スルコト

五 上部船尾水艙ヲ貨物艙トシ同時ニ機關室後方ニ深水艙ヲ設クルコトヲ研究スルコト

六 第五清水艙ヲ給水艙トシ第四給水艙ヲ清水艙トシ且之ヲ前後ニ區畫スルコト

七 「ホールドビラー」ノ位置ハ長尺物貨物ノ積卸ニ支障ナキ様考慮スルコト

八 「ハッチコーミング」ヲ連續シテ縦ノ強力ヲ増シ其ノ「ガーター」ノ端

ヲ船橋樑内ニ少クトモ三肋骨間隔延長スルコト

九中甲板ノ高サヲ三米トスルコト

一〇船首樓及船尾樓甲板ニハ砲座ヲ設クルコトヲ豫メ考慮シ置クコト

一一遊歩甲板室兩側「ブルワーク」ヲ廢止シ「バンドレール」トスルコト

一二甲板積貨物ヲ採リ得ル様適當ノ設備ヲナスコト

一三「マストハウス」ハ前後共其ノ形ヲ變更シ「ウキンチ」前方ヲ「クリー

ア」ニスルコト

一四船首溜ノ排水口ハ第一番船艙ノ後方ヨリ始メ後部ニ集ムルコト

一五橋ハ前後共鳥居型トシ「マストハウス」内ニ取込ムコト

一六船橋樓甲板各舷ニ採炭口一箇宛増設スルコト

一七船尾樓前端ヨリ操舵機室ニ至ル通路ヲ設ケ「トンネルエスケイプ」ヲ垂

直ニ導キ右通路ニ開口セシムルコト

一八船尾樓甲板上ノ出入口ヲ廢止シ網具類出入ノ爲艙口ヲ設クルコト

一九海軍要求ノ各事項ハ全部設備スルコト（昭和十六年海軍省令第三十八號

船舶信號及無線通信士定員ノ件同年法律第七十四號船舶保護法第三條

ニ定ムル船舶設備又ハ乗組員ノ整備等）

二〇端艇甲板ニ「オーニング」ヲ設備スルコト

二一船橋樓甲板ノ灰溜場ヲ廢止シ「クロスバンカー」内ニ之ヲ設備スルコト

二二「ボイラーケーシング」内ニ通風ノ爲「スクリーン」ヲ設クルコト

二三操舵室ノ幅ハ海圖室ノ幅ヨリ各舷二尺位廣クスルコト

二四舷梯ヲ兩舷ニ設クルコト

二五船尾樓甲板前ノ通風筒ハ同甲板内ニ取入レルコト

二六操舵機室ニハ少クトモ二箇ノ舷窓ヲ設クルコト
 二七無線電信室ハ廣サヲ研究ノ上左舷ニ移シ其ノ跡ニ居室及電池室ヲ設ケ發
 電機室ハ後部天窗ノ後方ニ移スコト
 二八豫備室(客室)ヲ二室ニ増加スルコト
 二九船員室ノ通風ヲ十分ナラシムルコト
 三〇簡單ナル醫療ヲ行フ室ヲ設クルコト
 三一風呂「メスルーム」ハ一室トシ中間ニ「スクリーン」ヲ設クルコト
 三二司厨長室ヲ遊歩甲板ニ、大工及倉庫番室ヲ船橋樓甲板ニ移スコト
 三三乘組員數並ニ室數ヲ左ノ通トスルコト

職員

甲板	四人	外ニ生徒二人	九室
機關	四人		
無線	四人		三室
事務	二人		二室
職員			
甲板部	十七人		四室
機關部	二十四人		五室

4390

賄部 七人

三室

合計 六十四人

二十六室

以上

A 型 船 要 目 表

1. 重 要 寸 法	128.00 x 17.80 x 9.80 米
2. 滿 載 吃 水	7.80 米
3. 總 噸 數	6,400 噸
4. 重 量 噸	9,300 "
5. 載 貨 容 積	13,382 立 方 米 12,233 ベール
6. 石 炭 庫 容 積	630 噸
常 備	477 "
豫 備	
7. 脚 荷 水 道 (二重底)	840 "
8. 船 首 水 艙	125 "
9. 船 尾 水 艙	77 "
10. 給 水 艙	217 "

11. 清水艀	2153 噸
12. トリミングタンク	168 "
13. 飲料水タンク	30 "
14. 最大實馬力	3,450
15. 速力 (最大)	15 節
(航海)	12 "
16. 石炭消費量	40 噸
17. 航續距離	7,500 浬
18. 揚貨機	8" x 12" — 12 基
19. デリツクブーム (第一第三第四第六番)	10 噸 — 2
(第二番)	25 " — 2
(第五番)	15 " — 2

0569

【一】

戦時標準船（B型）ノ設計ニ關スル協議會

昭和十七年三月二十三日

午後一時半—同五時

於應接室

出席者

齋藤氏（郵船）

岡田氏（商船）

新堀氏（商船）

武内氏（商船）

保里氏（三井）

矢野氏（山下）

御厨氏（中村）

伊藤氏（東和）

若林氏（嶋谷）

記事

河野専務理事ヨリ開會ノ挨拶アリ、生野顧問ヨリ戦時標準船B型設計ノ主要點ニ付説明アリタル後審議ヲ進メタル所

一、定員二名位ノ客室ヲ設クルコト

次席無線通信士ノ爲別室（二名）ヲ設クルコト

見習士官室（二名）ヲ設クルコト

大工室ヲ設クルコト

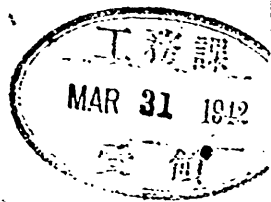
二士官及職長室ニ洗面器ヲ備フルコト

舷窓ノ數ヲ増加スルコト

舷梯ハ兩側ニ設クルコト

三、O型ニ比シ船員室ハ一般ニ狭小ナレバ同一寸法トスルコト

船員室ノ通風及防熱竝ニ機關室ノ通風ニ考慮ヲ拂フコト



四 船尾ノ形狀ヲ普通型トシ繫船用索ノ磨滅切斷ヲ防止スルコト

五 「デリツク」ノ「グーズツク」ヲ大ナル方ト同一寸法ニスルコト

六 船橋樁ノ後端出入口ノ下部三分ノ一ノ高サ迄「スチールドア」ヲ附シ

海水ノ浸入ヲ防止スルコト

七 冷蔵庫ノ容積ハ五噸以上トスルコト

八 發電機ヲ十五キロ二基トスルコト

大要右ノ通意見鑑リ、他ニ船員室ヲ中央部ニ設ケズ從來通船尾樁内ニ設クル方通風及防熱上竝ニ貨物積載容積増加ノ見地ヨリスルモ優レリトノ意見有力ナリシモ本件ハ設計ノ根本ニ關シ且ツ船員ノ希望ヲ考慮スル必要モアレバ更ニ考究スルコトトシタリ。

B_T型戦時標準船

(1) 要目変更箇所

浦賀船渠・村田

		平 準 船	戦 標 船	摘 要
噸 数	總 噸 数(噸)	4,500	約 4,400	約 100噸削減
	純 噸 数(噸)	2,660	" 2,600	
	載貨重量(噸)	6,850	" 7,060	約 210噸増
	載貨容積(M³)	8,350	" 9,050	約 700M³増
	石 炭 庫(M³) (全備)	731 256	630 652	5船中下貨物倉 →利用自由
船 体 要 目	長(垂線間)	112.00 ^M	} 全 无	(船中部分→水平 =造れる)
	幅	15.80		
	深	9.00		
	満載吃水(夏季)	7.415		
	方形肥満係数	0.73		
船 形	排水量	9,835.0	9,775.0	-60.0
	中甲板の高サ	3.00	全 无	
	艦橋甲板(長×高)	9.870×2.300	8.980×2.300	短少
	艦橋甲板(幅)	34.400×"	32.000×"	短少(4船中下貨物倉短縮)
	艦橋甲板(幅)	9.380×"	9.435×"	延長
機 関 要 目	船 頭 { 船 首 船 尾 { 船 尾	2.380 1.190	1.800 1.000	} 吃水3m以上ハ 小艇式軍用化 船団=敵 角ハ世襲型ハ細作 =造れる
	梁 矢(各甲板共)	300	300	
	船体新図	通信省航路自航試験船	吃水5m以下ハ平輪 通り夫ハ以上ハ軍用化	
	船尾形状	巡洋艦型	砲艦型	
	主 機 械	衝動式0-7流シ { 乾式室筒型 } { 4.4m×2.6m } { 17.5kg/cm² } 直流105V 15KW-至	} 全 无	
汽 機				
電 機				
推進器	M2022 四枚螺旋槳立式 4.560×3.457			
推進器				
馬 力	経 済 出力	2,000 (馬力)	2,000 (馬力) 110回転	} 全 部 保 証 スル =2バズ
	定 額 出力	2,400 (馬力)	2,400 (馬力) 117 "	
	最 大 出力	2,800 (馬力)	2,600 (馬力) 120 "	
	公 試 速力	15 節	約 15 節	
	航 海 速力	12 節	約 12 節	

0572

MA 31 1049

(2) 主要配置変更箇所

		平 準 船	戦 標 船	摘 要
船 橋 甲板 前 端 後 進		肋骨第 52-95間	中心デ3肋骨間ヲ移動シ デ 4肋骨間ヲ短縮ス	ホニ番船口ガ後退シ ホニ番船口及船内各所 ヲ拡大ス
船首 橋 甲板 船尾 橋 甲板		肋骨ホ 135間 前 肋骨ホ 15マテ	{ 延長 ホニ番船口後退 一肋骨間短縮	{ 凌波性↑ 石座ノマ ホ五船口拡大↑
機 械 室 汽 罐 室 石 炭 庫		肋骨 55-66間 " 66-76 " 76-80	肋骨 56-66 " 66-75 " 75-78	{ 3肋骨間短縮ス 15.1kW 設備電機 及機動送炭装置 ノ餘地ヲ設ケ
支 水 隔壁 全 新 設		肋骨 116番=アリ 船内各所比ハ { ホニ番船口 1.0 ホニ(ニ)番船口 3.2 }	肋骨 111番=新設 肋骨 89番=新設 但シ平時取外可能	船内各所比ヲ調整 { ホニ番船口 1.00 ホニ " 1.31 } ホニ " 1.03 最中船ノ安全上
ホニ番船口		航海船橋直前 = アルホニ番船甲板下 ヲ貨物用ニ利用 半減ス	航海船橋直後 =新設ス	船橋甲板下ノ全部 又ハ一部ヲ貨物用又ハ 石炭庫=自由ニ利用シ得
載 炭 口		合計 七ヶ所 内ニテアリミデリック 載炭人力移送トス	三ヶ所設置	デリック=新炭ニ 人力移送ノ要ナシ 載炭門ヘノ入便
船 口 寸 法	ホニ番	7.535 × 6.100	8.220 × 5.500	長サ大 幅小 { 船口拡大
	ホニ番	12.000 × "	12.000 × 6.200	
	ホニ番	4.800 × "	4.200 × 5.000	
	ホニ番	8.800 × "	9.600 × 6.200	
	ホニ番	8.800 × "	" × "	
デリック		5 艘 10組 3 艘 ナシ	5 艘 8組 3 艘 2組	
灰 捨		「エゼクター」使用 手挽ハ船橋下ノ 「シュート」ニヨル	「エゼクター」使用 手挽デ、船橋甲板 上ヲ灰ヲ捨トス	(ト巻内碇泊中)
傳 馬 船		舊型ガレット	「デリック」ヲ利用	
船橋甲板室		分離モス 船内交通便	前後ニ分離ス	立寄船甲板短縮

(13) 諸室配置変更箇所

	平 標 船	戦 標 船	摘 要
海 図 室 無 電 機 室 電 池 室 電 動 機 室 操 舵 室	端艇甲板外隔 全 両袖開放	縮 少 擴 大 全 無電機室隣 全 端艇甲板上 両袖開放	無線裝備増備 両袖共硝子張可
ク- オ- イ- ス メ- ル- ム 洗 廻 所 不 務 補 室 便 所	ナレ アリ ナレ ナシ 船長用 役員用	擴大 明朗化 三箇所設置 アリ (五人) 送 転 士 用 機 関 士 用	船内一切不務ヲ處 理ス 役員居室内ヲ 不 務 ハ 執 ラ ス 各居室 汲取式痰止 微用 時豫備員用
役員居室	寢室兼 不務室	寢室専用トシ 室内 諸裝備品ハ極力利 限スルコト	平和ニハツテ要スルハ 裝備可能トス
属 員 室	水夫長 1室 1人 大工倉庫番 2 舵 夫 4 水 夫 8 計 4室 15人 火夫長 1室 1人 油 差 4 火夫室 4 全 8 計 4室 17人	水夫長 1室 1人 舵 夫 4 水 夫 8 計 3室 13人 火夫長 1室 1人 油 差 4人 火夫室 12人 計 3室 17人	
漬 物 庫 乾 物 庫 米 氷 倉	艦 樓 甲 板 下 全 艦 樓 甲 板 上 艦 樓 甲 板 下	艦 樓 甲 板 下 全 艦 樓 甲 板 下 艦 樓 甲 板 上 艦 樓 甲 板 下	南洋向航ハシヨクアリ 1億半ニ製氷機室 ヲ設ケ 艦 樓 甲 板 下 倉庫ヲ氷室ニ 改ムル予定
灯 貝 庫 塗 料 庫 船 匠 工 場	艦 樓 甲 板 下 全 艦 樓 甲 板 下	艦 樓 甲 板 下 艦 樓 甲 板 下 全	

0574

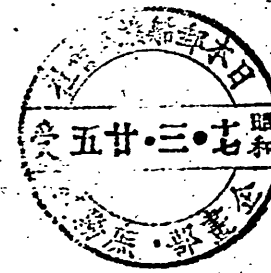
(4) 船体構造上の変更箇所

	基準船	既標船	摘要
上甲板 橋梁甲板 甲板間	普通横梁型肋骨型 防接式トス	浦賀式縦横肋材組 立法ヲ採用即チ 縦肋骨及特設肋骨 縦梁及特設横梁 水平防接材	上部構造鋼材、 合理的節減 但シウエフ ⁷ ノ出張 リハ載貨ニ多少邪魔 トナル
二重底構造	組立肋板 実体肋板	浦賀式縦肋材構 造法採用即チ (内底板附縦肋材 船底外板附 実体肋板	工作容易 鋼材合理的節減
石炭庫内		隔壁ハ堅防接材 鋼板ハ薄キセズ	防錆考慮
船首材	下部鍛鉄鋼 上部ハ鋼板	鋼板曲線直線 式トシ	鍛鉄鋼材ヲ用 セズ
艀骨材	一個ノ 鑄鋼材	「ボス」艀受部及 踵部ノ三個ヲ別々ノ 鑄鋼トス。中間ヲ鋼 板製ニテ連絡	鑄物製作容易 修理容易
外板		船首尾部ハハズレ 上甲板ニ沿ハレズ 平坦容易ニ張ルコト	カリエスハ 形板ヲ極限ス。
艀口側縁材		艀縁部ニ連続延長	補強
第二甲板	有効甲板	台甲板	
艀構造	艀頭管ハ箱 形	艀頭管ハ「コツ」形 ニ造ル其後方部ヲ 水艀トス	工作容易 「カウンタ」水艀ハ 「パイプ」ニテ艀水 艀ヘ連絡ス

註 (1) 造船聯合会ヨリ主トシテ鉄固着ノ構造トス様指示アリ。ソノ設計
ニテ材料表ヲ作成提出ス。

(2) 浦賀船渠テハ当社従来ノ工作法通リ、極力電気溶接ヲ採用
シタル設計ニ改メ、別ニ材料表ヲ提出ス。コレニ該船モジ

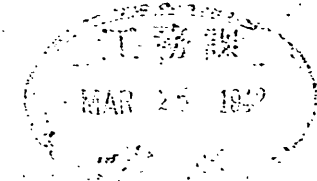
9450



(3) 戦時標準船ノ主要項目ニ関スル表

名 稱	略 號	総噸数	重量噸	主 要 寸 法	吃 水	機 關	試運轉速力	設 計 擔 任
A 型 戦 時 標 準 船	A	△ 6,800	△ 9,500	128×17.8×9.8	△ 7.8	三 聯 成	15	川 南 工 業
						タービン	15.5	三 菱 長 崎
B 型 戦 時 標 準 船	B	4,400	7,000	112×15.6×9.1	7.4	三聯成 タービン	14.7 15.0	浦 賀 船 渠
C	C	2,700	4,585	93×13.7×7.6	6.35	三 聯 成	13.5	鶴 見 造 船
D	D	1,820	2,600	82.5×12.2×6.2	5.55	三聯成 尾	13.2	
E	E	650	1,250	60×9.5×5.0	4.5	デーゼル	12	尼 崎 船 渠
F	F	△ 490	△ 750	50×8.4×4.2	△ 3.8	デーゼル 尾	12	三 菱 彦 島
五千噸型戦時標準積石船	K	5,250	7,900	120×16.5×9.5	7.3	三 聯 成	14	三 菱 神 戸
一萬噸型戦時標準油槽船	TL	10,000	14,000	155×20×11.5	9.05	タービン 尾	19	播 磨 造 船
五千噸型	TM	5,200	6,800	120×16.5×9.0	7.34	タービン 尾	16	三 菱 横 濱
千噸型	TS	1,000	1,250	60×9.3×5.0	4.7	三聯成 尾	12	浪 速 船 渠

△印ハ未詳ニ付從來ノ設計ニ依ル



B 型 戦 時 標 準 船 要 目 表

() 内 ハ BRS = 對 ス ル 数 字 ト ス

重 要 寸 法

112.00 米 × 15.80 米 × 9.10 米

全 船 載 吃 水

7.415 米

同 排 水 量

9,835 噸

中 甲 板 ノ 高 サ

3.00 米

総 噸 数

4,400 噸

純 噸 数

2,600 噸

積 貨 重 量

7,060 噸 (7,000)

載 貨 容 積

9,050 噸 (8,950)

石 炭 庫 容 積

630 噸

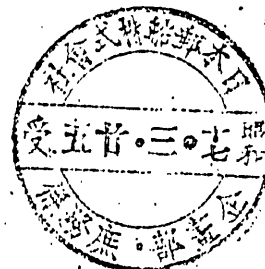
像 備 石 炭 庫

7,652 噸 (アンダーブリッジ)

0577

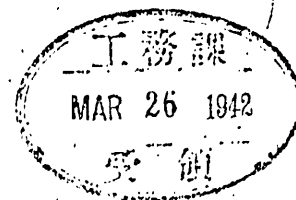
0578

12.0 節 (11.4)



現代

13



逕 達

字 務 部

東京市丸ノ内 日本郵船株式会社
電話 内(23) 代表電話 二五二一 二五三二 官製船用

庶務部第十一期

昭和十七年四月五日

工務部長

澤長

鈴木恒太郎 殿



飯田芳彦

工務課
APR 6 1929

「戦時標準船(B型)乗組員定員数」件 回答

貴部「工底新第一〇二号」ヲ以テ御同令ノ頭記件ニ関シ、貴方意見左ノ通り
申上テ

一 通信士定員数、件

定員比較表「通信士二人同居」トナルヲ「首席通信士一人一室」次布

通信士二人同居」ト訂正有度

本件ハ各船主希望トシテ既ニ日本海運協會提出済ノ由ナルモ、是非共

実現有之度

一 船医定員、件



「遠洋航航場合乗組員保健」見地ヲ船医一名配乗致度

海軍期間設備場合、船医ノ配乗ヲ軍ヲ要セザルニ下リ、以上

延 紙

勞務令第11号

現業課

工務部

田澤 務部長

由中

有井 澄

部長

昭和十七年四月七日

一、最終標準(B型)船長組員表の件

右ニ関シ貴部工務部第一〇二号一拜呈ス

本件ニ関シ別紙表員表由参照被リ当方希望左ノ通り

申上

甲板部

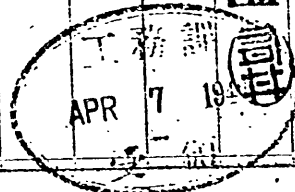
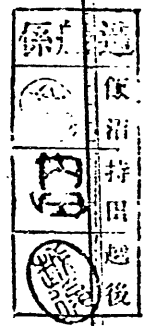
大工及甲板庫番ハ是非共配属ノ要アルニ付場合ニヨリテハ

同室ハ不己得之ニ対スル寢床設備願度

水夫ハ吾社制度上見習配属ハ是非共考慮ノ要アリ別紙

定員表由参照上寢床九設備ヲ希望ス

機 関 部



遠洋航程ノ場合油差四名ハ是非ニ配乗ノ要アリ右ノ外庫下省
 一名ノ配乗ヲ要スルモノニ付油差度床五ノ設備ヲ希望ス
 火夫度床ハ水夫ト同様理由ニヨリ見附配乗ヲ希望シ度床
 一四設備ヲ希望ス

事務部

遠洋航程ノ場合料理人一名僧員ノ要アリ且ツ水夫同様に
 見附配乗ヲ考慮ノ必要アルニ付事務補司厨長ヲ添キ
 料理人給仕度床七設備ヲ希望ス

以上

電話九、(23) 代議巻 三三二一 三三三二 三三三三 三三三四 宿直係用
 東京市九ノ内 日本郵船株式會社

2850

逕 綴

Mis 1

告海務貨物庶務部

企統各第一六部

工務部長

親展

企畫部長

録制係

鈴木恒太郎 殿

部長

昭和十七年四月一日

一、DRS型戦時標準船一般配置図

今在

要目表

送附一件

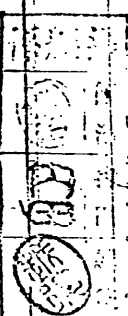
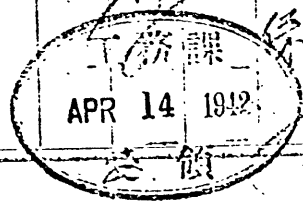
早海運協會第三十六回理事會（四月十日於神戸開催）にて審議サレシ

戦時標準船（D型）設計一件二冊、首題各一部入手致スルニ付

茲許貴方ニ送附申ス

以 主

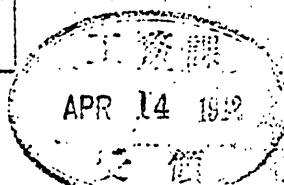
（三三九） 代表者 三三二 三三三 三三四 三三五 三三六 三三七 三三八 三三九 三四十 三四一 三四二 三四三 三四四 三四五 三四六 三四七 三四八 三四九 三五〇 三五〇 日本郵船株式會社



B 5 (100) 2-47

DRS型戦時標準船要目表			
船體部			
1. 船体部主要寸法		V/W	1.177
全長 (米)	87.660		
長 (重線間)	82.300	石炭庫容量:-	
幅 (型)	12.200	横炭床 (吨) 1.25米 ³ = 1吨	114
深	6.200	予備石炭床 石炭艙口 毛容ム	161
船 弧		合 計	275
前 部 (米)	1.900		
後 部	0.950	水艙容量:-	
最大満載吃水 (d)(米) (D)ハ型ヲ示ス	5.350 (5.33.0)	艙首水艙 (吨)	103
全上排水量 (吨)	4,080	方一深水艙 (脚添)	61
方形肥瘠係数	0.741	方二脚添水艙	97
乾 舷 (米)	0.84	方三	142
甲板層数	1	方四	131
甲板間隔サ		方六	70
艙首楼 長×高サ (米)	0.92×2.00	船尾水艙	40
艙橋楼 × ×	0.76×2.30	計 (脚添水)	647
艙尾楼 × ×	2.64×2.15	方五 養生水艙	73
艙尾楼 端舷甲板間隔サ	2.15	飲料水槽	10
		計 (清水)	88
2. 船級噸数其他			
船 級		合 計	730
總噸數 (噸)	1,900		
純噸數	1,050	4. 艙口及デリック等	
船 外 区域	近 海	前部艙口長×幅 (米)	8.54×6.40=54.6
		後 部	2.50×6.40
3. 搭載能力其他		戰炭D数×長×幅	2-1.60×1.50 1-1.60×4.20
載貨重量噸数 (w)(噸)	約2,050	デリック数及能力 (噸)	4-8.2-10 1-40.2-3 (戰炭用)
載貨容量 (ベール) (米 ³)			
前部貨物艙	1,030		
後部	2,220		
艙尾楼内貨物艙 (中備石炭庫兼用)	170		
合 計 (V) (米 ³)	3,420		

正統各才 16



0583

5 甲板機・械寸法		2. 重心 其他	
揚錨機 (花)	230X280	輕荷狀態:-	
揚貨機	6-200X300	K G (米)	5.25
“ (載炭用)	2-180X300	X G	後方 4.5
纜捲機	1-180X300	平均吃水	1.80
操舵機	165X165 (直結式)	空艙出港狀態:-	
		排水量(噸)	1.901
6. 無線電信裝置		K G (米)	4.75
主裝置 長波 (ワト)	250	G M	1.05
“ 短波	250	X B	後方 2.4
補助裝置 長波	50	X G	後方 4.67
方位測定機	1	吃水各部	1.46
重量 重心 其他		後部	3.95
1. 重量		平均	2.71
船体鉄部 (噸)	760	縱傾斜	後方 2.49
船体木部	50	滿載出港狀態:-	
機裝	145	排水量(噸)	4.085
汽機	90	K G	4.54
汽罐	90	G M	76
電氣器具	5	X B	後方 4.2
其他	55	X G	後方 6.1
輕荷重量	約 1195	吃水各部	5.27
		後部	5.45
		平均	5.36
		縱傾斜	後方 1.1

旅客及乗組員数		機関部	
1 旅客	0	速力及燃料消費量等	
		公試最強速力 (節)	12.0 ¹²
2 甲板部員		航海速力	11
船長	1	石炭消費量(經濟) (噸/日)	16
一 運	1	航続距離 (哩)	4500
二 "	1		
三 "	1		
水夫長	1		
大 工	0		
水 夫	4		
舵 夫	4		
計	10		
3 機関部員			
機関長	1		
一 機	1		
二 "	1		
火 夫 長	1		
火 夫	8		
油 差	4		
計	16		
4 事務部員			
無線局長	1		
次席通信士	2		
司 厨 長	1		
賄有及給仕	4		
計	6		
乗組員總計	27		

DRS 型戦時標準艦機関部要目表 825LX12.2B X 6.2 D
G.T. 1.900 T

主機関	型式及台数	三段膨脹汽機 ----- 1基										
	汽筒行程	420 X 710 X 1,200 / 800										
	計画出力(固示)	最大 1,300 定格 1,100 経済 900										
	計画回転数	" 110 " 107 " 100 -										
主汽罐	型式及台数	乾燃室筒型 ----- 2罐										
	圧力及温度	16 kg/cm ² G.X 飽和蒸汽										
	寸 法	内径 3,850 X 管板間長 2,200										
	受熱表面積	H.S. 2 X 151.7 M ² G.A 2 X 3.7 M ²										
主復水器	型式及台数	表面冷却式 ----- 1基										
	寸 法	C.S. 130 M ² 管板間長 2,440										
補機名		型式	数	寸 法	力 量	蒸気圧力	蒸気管径	排気管径	吸入管径	吐出管径	備考	
主機直結補助機械	抽吸ポンプ	エドワード	1	440 ^φ X 400 ^S	9 H ³ /R				260	80		
	給水ポンプ	フランチャ	1	110 ^φ X 400 ^S	20 M ³ /R				90	90		
	ホタテポンプ	"	1	110 ^φ X 400 ^S					"	"		
	凝縮器回転機	単汽筒	1	135 X 120		160	30	30				
獨立補助機械	循環ポンプ	遠心式	1	180 X 130 / 400	450 M ³ /H X 6.0 H	8.5	45	60	260	260	D型標準	
	給水ポンプ	ウェーヤース	2	220 X 160 / 450	13 M ³ /H X 21 kg/cm ²	16.0	25	35	80	70	"	
	バラストポンプ	ウェーヤース	1	180 X 230 / 280	120 M ³ /H X 2 kg/cm ²	8.5	35	45	150	140	"	
	清水ポンプ	"	1	25 X 90 / 100	57 1/4 X 2 kg/cm ²	8.5	15	20	45	40	"	
	雑用ポンプ	"	1	140 X 120 / 200	20 M ³ /H X 6 kg/cm ²	8.5	25	35	80	70	"	
	発電機	強圧注油式単汽筒	1		15 KW 105 V	8.5						"
	送風機	"	1	140 X 115 X 500	300 M ³ /H 80 M ³ /H	8.5	40	50	900	750 X 500	"	
	灰揚機械	二筒式	1	120 X 130	240 kg 15 M	8.5	25	35			"	
補機名		型式	数	寸 法	力 量	蒸気圧力	蒸気管径	排気管径	吸入管径	吐出管径	備考	
補助復水器		表面式	1		C.S. 40 M ²		230	70	130	130	D型標準	
給水加熱器		觸面式	1		H.S. 7 M ²		120	25	70	70	"	
給水濾器		カステード	1	1150 X 950 X 1,000	1.1 M							
甲板機械	機械名	型 式	数	寸 法	力 量	蒸気圧力	蒸気管径	排気管径	吸入管径	吐出管径	備考	
	操縦機	堅 型	1	165 X 165	2.7 M-T	8.5	40	45				
	揚錨機	二汽筒横型	1	230 X 280	48 HP	"	45	50				
	47022515	二汽筒=投力	1	180 X 300	40 HP	"	45	50				
	揚貨機	"	6	200 X 300	5 T (50 HP)	"	"	"			D型標準	
	"	"	2	180 X 300	5 T (40 HP)	"	40	50			載炭用	

三月五日午後神戸明海ビルニ於テ頭等海運協會政策、海務兩委員聯合ニテ開催ノ戰時標準船（C型）ノ設計ニ關スル會議ニ列席セルニツキ會議模様左ノ通り御報告申上グ

一、會議ノ目的

河野専務理事（座長）ノ挨拶ニヨレバ去ル二月廿七日同所ニ於テ關係者數名會合シテ豫備的ニ調査セル事項ノ再吟味並ニ追加希望事項等アラバ審議ノ上政策、海務聯合委員會ノ決定事項トナシ七日開催ノ理事會ニ提出承認ヲ得タル上海運協會ノ答申案トシテ海務院ニ提

海運協會戰時標準船（C型）ノ設計ニ關スル政策、海務聯合委員會報告

社長

副社長

和田常務

河野常務

渡辺常務

昭和十七年三月十日

工務部

造船課

電話九ノ内
代表番號 二五二一 出 二五三二 宿直兼用
二五二一 出 二五三四
東京市丸ノ内 日本郵船株式會社

出セントス

二、會議經過

海務院ヨリノ諮問事項ハ一般配置、構造圖、基本設計、船体部並ニ機關部ノ要目表、乗組定員表ナルモ構造圖其他ノ基本設計圖等ニ對シテハ審議ノ余裕ナク主トシテ一般配置圖並ニ要目表ニ限ラレタリ而モ一般配置圖ハ會議席上ニテ配布セラレタルモノニテ充分ナル審議ヲ爲サレタリトハ思ハレズ、又其他圖面ハ一部ノミニテ委員ニ回覽スラサレズ從而本會議ノ審議ハ完全ト云フヲ得ザルベシ

三、協議事項

(1) 乗組定員

税關吏、水先案内等ノ爲定員二名位ノ豫備室ヲ設クル事
海軍省令第三八號ニ依ル船舶保護上必要トスル無線通信士ノ定員ニヨリ次席無線通信士ノ寢床二箇ヲ備フル事
火夫ノ寢床一個ヲ増設ノ事

(ロ) 就航航路ヲ調査ノ上航路ニヨリ設備ヲ考慮スル事

特ニ南洋方面就航ヲ目的トスルモノニハ屬員區劃ハ充分ナル防熱
通風(機械通風ヲモ考慮ノ事)ヲナス事

天井ノ内張ハ勿論床モ機關室頂部ニ對シテハ木甲板ノ必要モアル
ベク充分防熱ニ留意ノ事

(ハ) 水夫ヲ船首樓下ニ火夫ヲ船尾樓下ニ配置希望ノ向モアリタレド
モ原案ニヨル事トナル)

(ハ) 端艇甲板上ノ採炭用「デリツク」ノ位置ヲ變更シ汽罐室通風筒ニ
接觸セザル様ナス事

(ハ) 通風筒移設ニ關シテハ灰ノ捲揚方法トモ併セ考慮ノ事)

(ニ) 船尾ノ型狀ヲ普通型(カウンター式)トナス事

普通型トスレバ甲板面積ヲ増加シ繫船操作ニモ便又「ピツチング」
ニ對シテモ好結果ヲ齎スベシ

(ホ) 艙口梁ノ互換性ヲ考ヘ艙口ノ幅ヲ同一トスル事ヲ希望ノ向モアリ

電話九ノ内 2 代表番號 二五二一 二五三二 宿直線用
二五二二 二五三四
東京市丸ノ内 日本郵船株式會社

タレドモ一番艙口ヲ擴大シテ二番艙口同様トナス事ハ中甲板ノ面積ヲ減少シ積荷上ニモ不便又船体強力上モ好マシカラズ
サリトテ第二、第三艙口ノ幅ヲ縮少スル事ハ改善協會案ヲ改正セ
ル海務院側ノ意向ニ反ス依而原案ノ儘トシ「ハツチボード」ノ互換性
ニツキテハ留意ノ事

(ハ)「デリツク」ヲ全部同長トナシ度希望モアリタレドモ艙口ノ寸法
並ニ「デリツク」ノ格納ノ關係上不可能ナルニツキ事情ノ許ス限
リ一〇噸ノモノ五噸ノモノヲ夫々同長トナス事

尙第二番艙ノ片舷ノモノヲ二〇噸トシ中央ノ二〇噸「ヘビーデリツク」
ヲ取止メ中央ニハ金具ノミヲ取附ケ置キ必要ニ應ジサイドノモノ
ヲ移シテ「ヘビーデリツク」トシテ使用シ平素ハ二〇噸ノモノチ一〇
噸代用トスル事提案アリタルモ乗組員ノ煩勞ヲ避クル爲原案ノ儘
トス

(ト)氷箱ハ最少限一二〇立方呎トスル事夫レ以上ノ要求ニ對シテハ甲

- 板上ニ氷箱ヲ置ク事トス
- (チ) 汽罐室ノ通風ヲ充分ニスル爲「エアハッチ」ヨリ冷氣ヲ入レ煙突ニ排氣スル様適當ナル「スクリーン」ヲ設クル事
- (リ) 船尾樓上ノ傳馬ハ通行ニモ防害トナル故「ダビット」ヲ高クシテ必要ノ場合ハ傳馬ノ下ヲ通行出來ル様下部ニ三尺程度ノ余地ヲ設クル事（普通型トスレバ緩和スベシ）
- (ヌ) 船橋樓後端入口ノ下部三分ノ一ノ高サ迄鋼製扉ヲ附シ荒天ノ際海水ノ浸入ヲ防止スル事
- (ル) 中甲板ノ「トリミングハッチ」ノ増設又ハ移設ヲ考慮スル事
- (ヲ) 航續距離六、〇〇〇海里トナレルモ現今ノ如キ不良石炭ノ場合ハ困難ナリ石炭庫ノ増設希望モアリタルモ航路未定ナルニツキ原案ノ儘トシ中甲板ヲ必要ニ應ジ豫備炭庫トナス様考慮ノ事
- （中甲板水密隔壁ニ水密扉ノ新設ヲ要ス）
- (ワ) 發電機ハ一二K.W.ナルが無線通信ヲ考慮セバ一五K.W.トナス要アルベ

電話九ノ内
代表電話 二五二一 二五三二 二五三四
東京市九ノ内 日本郵船株式會社

シ（海軍ニテ發電機ハ一〇、一五、二〇 K.W.ノ標準トシ〇型ニハ一五 K.W.ヲ考慮シ居ルガ如シ）

(カ) 船舶保護法第三條ニヨリ方向探知機ノ裝備ヲ要ス

(コ) 冷却機及「ファン」等ハ熱帶ヲ考慮シ力量ニ余裕ヲ有セシムル事

(ク) 仕様書ニツキテモ審議ヲ希望ス

(ケ) 雜用ポンプノ蒸汽壓力ハ八・五 K.G.ナレドモ設計ハ一六 K.G.トスル事

（給水ポンプ二臺アリテ灰放射ポンプナキ故其要ナカラシ）

(イ) 循環ポンプハ六〇〇 M³ニテ力量差支ナカラシ

四海務院トノ會見經過

去ル五日神戸ニ於ケル聯合委員會ノ協議事項ヲ取纏メ理事會ニ上提
ノ上日本海運協會ノ答申事項（寫添附）トシテ九日午前河野專務理
事持參上京生野顧問ト共ニ海務院船舶部長ヲ訪問セリ河野氏ノ希望
ニヨリ小職モ同行答申事項ニツキ補足説明ヲナシ尙當方其後ノ調査
ノ結果ヲモ參考トシテ述ベ置キタリ

- (イ) 河野専務理事ヨリ答申事項ヲ逐條説明ス尙答申項目ニハ記載ナキモ載貨重量ニ比シ容積割合ニ少ナルヲ遺憾トスル旨陳述ス
- (ロ) 税關吏、水先案内等ノ爲ノ豫備室、無線通信士ノ室ノ増設、火夫ノ寢床増設等ノ爲ニハ一般配置ヲ一般的ニ模様替ノ要アリ其ノ方法トシテハ船橋樓甲板左舷前部ノ碇泊中灰置場所ガ實用上價值渺キ爲之ヲ撤廢「クロスパンカー」内ニ隧道ヲ設ケ碇泊中ノ灰置場トシ定檢時殘炭ヲ第二番艙ニ繰リ出シ得ル様隔壁ニ工事孔ヲ設ケ平素ハ鉋接シ置ク等考慮ノ事
- (ハ) 士官食堂ヲ廢シテ上級船員ヲ全部食堂一室ニテ供食スル事ヲモ考慮シテ(ロ)項船室増設ノ助ケトナスモ一案ナリ
- (ニ) 端艇甲板兩舷各一口ノ採炭方法ニテハ余リニ採炭ニ長時間ヲ要ス船橋樓下ニ採炭口新設ヲ考慮ノ事
- (ホ) 海務院ノ機關部ニ於テハ清水「ポンプ」ハ裝備セザル事ニ決定シ居ル筈調査ノ事、若シ然ラバ賄場、船員浴室等計四箇ノ手働「ボ

電話九ノ八
代表電話 二五二一 二五三二 宿直兼用
二五二一 二五三四
東京市丸ノ内 日本郵船株式會社

ンブ」配置ノ要アリ

(ハ) 機関室ノ中段ノ清水槽ハ修理等ノ場合ヲ考慮シ船体一部ノ構造ト

シテ水槽ヲ設クル事此ノ場合「スラストレセス」ノ頂部ニ配置スル事

モ考慮ノ事

(ト) 汽罐室後部ニ「スクリーン」隔壁ヲ設ケタルモ配置窮屈ナリ汽罐

ノ後部ヲ汽機室ニ出シテモ差支ナキ様充分防熱ヲ考慮スル事

(チ) 汽罐室ノ通風ヲ完全ナラシムル様煙突下ニ「スクリーン」ヲ設ク

ル事

(リ) 無線室ノ天井ハ鋼甲板ヲ張り漏水ノ場合無線機械ニ事故ナカラシ

ムル事

五 海務院ト造船所トノ會見經過

九日午後「ロ」型船設計擔當者タル淺野造船所關係者ヲ海務院ニ招

致シ海運協會ノ答申事項ニツキ協議アリタルニツキ河野專務理事、

生野顧問ト共ニ再度列席ス主ナル協議事項次ノ如シ

- (イ) 載貨重量ニ對スル貨物容積ノ割合小ナルハ船体重量輕減ニヨル載貨重量ノ増加ニ對シ船型ノ舷弧ノ減少並ニ深水槽新設ノ爲メ載貨容積減少ニ起因スルモ改善協會ノ要目表ニ示ス容積五、三二〇立方メートルハ概算ニテ實船ノ場合五、一五〇立方メートルナル故戰時標準型ノ五、〇九一立方メートルニ比シ五九立方メートルノ減少ナリ
- (ロ) 船員室増加ニツキテハ一般配置再度製作ノ事
- (ハ) 採炭用「デリック」ノ件調査ノ事造船所トシテハ甲板ニ一應卸シ艙口ニ投下スレバ問題ナカラント云フ
- (ニ) 船尾形狀ノ件ハ鋼材、人工數ノ節約ヲ目的トスルモノニテ海務院ニテ異存ナケレバ變更可能ナルモ戰時標準型ヲ一律ニ決定ノ要アリ難色アルモノノ如シ
- (ホ) 船橋樓下船員室ノ通風ハ充分考究ノ事又床ハ木甲板張トスル事
- (ヘ) 艙口ノ寸法ハ原案ノ儘トシ「ハッチボード」ハ事情ノ許ス限り統一スル事

電話九ノ内
東京市丸ノ内
代表電話 二五二一 二五三二 二五三四
日本郵船株式會社 宿直室用

- (ト)「デリツク」ハ格納ノ關係上統一困難ナリ
- (チ)船橋樓甲板兩舷ノ「ブルワーク」ハ原案ノ儘トシ「新ヤンバス」又ハ木板ニテ石炭搭載ノ際支障ナカラシムル様考案ノ事
- (リ)船橋樓ノ後端ノ出入口ノ鋼製扉ノ件ハ海務院ニテ噸數測度法ニ抵触セザルヤ研究ノ事
- (ヌ)冷蔵庫ハ原案ニテモ一二〇立方呎以上アリ
- (ル)方向探知機ハ裝備ノ事ニ手配セリ
- (ヲ)機關室ノ開口特ニ大ナルガ右ハ主機關及汽罐ヲ組立テタル儘積ミ込ミ得ル事ヲ目的トス即チ進水前ニ上部鐵工事ヲ固メントスルモノニテ此ガ爲一般配置ニ無理ヲ生ズルガ如キハ極メテ愚ナリ一般配置再製ニ際シ考慮ノ事
- (ワ)乗組員定員ヲ海務院船員部ニテ至急決定セザレバ標準型船トシテ船主ノ自由ヲ許サザルニ於テハ計畫圖作製上不都合ナリ、海務院ノ考慮ヲ促ス

電話九ノ丁 代表電話 二五二一 二五三二 宿直兼用
東京市丸ノ内 日本郵船株式會社

(カ)社外船ニテハ考慮シ居ラザレドモ郵船ニテハ「タリーマン」配乗
ニツキテモ研究ヲ要ス

(コ)一般配置圖變更案出來ノ上ハ船主ニ再度照會ヲ希望ス
右ヲ以テ戰時標準「C」型船ノ會議經過報告ヲ終ルモ此種標準型設定
ニ際シ指定造船所ニ對シ計畫ヲナサシメ計畫案完成間際トナリ海運協
會ニ意見ヲ徴シ而モ短時日ニ調査セシムルガ如キハ調査ノ萬全ヲ期シ
難ク多數ノ同型船ヲ建造セントスル大事業ノ計畫方針トシテハ如何力
ト考ヘ此ノ點右會見ノ都度述べ置キタリ
戰時標準型ハ大体改善協會ノ案ヲ採用セリト謂モ改善協會案ニハ船主
ノ希望ニヨリ多少ノ模様替ヲ許容スル用意アルモ戰時標準型ニハ其ノ
用意ナキモノノ如シ少クトモ改善協會ノ「C」型船所有船主ノ實績ニ
對スル意見ヲ徴スル事ハ極メテ肝要ナリト思考ス

添附 一、戰時標準型一般配置圖

二、日本海運協會答申寫

C. 型戰時標準船要目表

船体部			
1. 船体部主要寸法		(d ₁)=於满载貨重量噸数(w)(噸)	4,445
全長 (米)	97.97		
長 (垂線間) "	93.00	載貨容量, ベール ¹ (米 ³)	
幅 (型) "	13.70	一 貨物艙	1,014
深 "	7.60	二 " 艙口全長	1,671
艙深		三 " "	2,102
前部 (米)	1.95	艙橋内貨物艙	37
後部 "	.95	艙橋 " (予備石炭庫兼用)	267
最大满载吃水 (d ₁) (米) 型ヲ示ス	6.378 (6.350)	總合計 (V) (米 ³)	5,091
全上排水量 (噸)	6,088		
方形肥瘠係數	0.731	V/W	1.161
乾 舷 (米)	1.259	V/W ₁	1.145
乾舷減少量 (米) 乾舷長通標船 1557号ニ依ル	56		
全上满载吃水 (d ₂) (米)	6,434	石炭庫容量:—	
全上排水量 (噸)	6,148	橫炭庫 (噸) 1.25 M ³ = 1 T	166
方形肥瘠係數	0.732	側炭庫 "	144
甲板層數	2	計 (常備石炭庫) (噸)	310
甲板間, 高カ		予備石炭庫 " 石炭艙口 ニ合ム	244
上甲板, 亦ニ甲板間 (米)	7.40	總合計 "	554
艙橋長サ×高サ	5.69×2.20		
艙橋樓 " × "	23.56×2.30	水艙容量:—	
艙橋樓甲板端艙甲板間 "	2.30	艙首水艙 (噸)	49
艙首樓長サ×高サ	8.635×2.20	一 荷脚水艙 "	79
		二 " "	172
		三 " "	152
		四 荷脚深水艙 "	55
2. 艙級噸數, 其他		艙尾水艙 "	76
艙 級		計 (荷脚水) "	580
總噸數 (噸)	2,700	三 清水艙 "	86
純噸數 "	1,500	四 養生水艙 "	64
航行区域	近海	飲料水艙 "	20
3. 搭載能力, 其他		計 (清水) "	170
(d ₂)=於满载貨重量噸数(w)(噸)	4,585		

FEB 28 1942

総合計	(噸)	150	重量 重心 其他	
			1. 重量	
4 艙口及「リック」等			船体鉄部 (噸)	1.038
「一」艙口 長×幅 (米)	2535×5.00		船体木部	76
「二」 " " "	10.64×6.00		機装	200
「三」 " " "	9.12×6.00		汽機	170
「四」 " " "	7.60×5.00		汽罐	149
載炭口数×長×幅	2×130×1.00 1×130×4.70		電気器具	10
「リック」数及能力	4-5T 4-10T 1-20T 2-3T(載炭用)		其他	60
			輕荷重量	1.703
5. 甲板機械寸法			2. 重心 其他	
揚錨機 (噸)	230×280		輕荷状態:-	
揚貨機	4-200×300			
"	4-180×300		KG (米)	5750
" (載炭用)	2-180×300		KG	後方250
纜捲機	1-180×300		空艙状態:-	
操舵機	190×190(堅型)		排水量(噸)	2.588
			GM (米)	1.500
6. 無線電信装置			XB " 船庫水艙ハ滿載トス	前方1930
主装置 中波 (W)	250		XB G " 各清水艙	後方3.175
全上短波	250		吃水前部, ハ滿載トス 石炭ハ常備	1.285
補助装置 中波	50		後部, 及予備炭	4.145
			平均, 1/4滿載トス	2.965
			縱傾斜	2.360
			d ₁ = 於ケル滿載状態:-	
			排水量 (噸)	6.148
			平均吃水 d ₁ (米)	6.234
			KM	5.710
			KG	5.200
			GM	1.510
			XB	前方525
			XB G	" 525
			縱傾斜	0

C. 型戰時標準船舶機関部要目表

主機関	型式及台数		三段膨張汽機 …… 1基								
	汽筒/行程		510 × 855 × 1.440/990								
	計画出力(図示)		最大2.000 定格1750 経済1.500								
	計画回転数		96 " 91 " 86								
主汽罐	型式及台数		乾燃室筒型(標準型3号罐) …… 2罐								
	圧力及温度		16kg/cm ² G × 飽和蒸汽								
	寸 法		内径 4300 × 管板間隔 2306								
	受熱及火床面積		H.S. 2 × 1945 ^{M²} G.A. 2 × 5.4 ^{M²}								
主復水器	型式及台数		表面冷却式 ----- 1基								
	寸 法		C.S. 194M ² (管板間 2.440								
補機名		型式	数	寸 法	力 量	蒸気圧力	蒸気管径	排水管径	吸入管径	吐出管径	備考
主機直結補助機械	抽気ポンプ	エドワーズ	1	525 ^φ × 495 ^φ	12M ³ /Hr				180	120	
	海水 "	プランジャー	1	110 ^φ × 495 ^φ	20 "				100	100	直径ハブシヤ付
	サンタリー "	"	1	110 ^φ × 495 ^φ	" "				100	100	"
	発停兼回転機	單汽筒	1	165 ^φ × 150 ^φ		8.5	35	35			
獨立補助機械	循環ポンプ	遠心式	1	$\frac{180}{136}$	600 ^{M³/H} × 6.0 ^M	8.5	45	60	280	280	C型標準
	給水 "	ウェアース	2	$\frac{250 \times 180}{450}$	17 ^{M³/H} × 21 ^{kg/cm²}	16	30	40	90	80	"
	バラスト "	ウォレントン	1	$\frac{200 \times 250}{250}$	150 ^{M³/H} × 2 ^{kg/cm²}	8.5	40	50	160	140	"
	清水 "	"	1	$\frac{75 \times 90}{100}$	5 ^{M³/H} × 2 ^{kg/cm²}	8.5	15	20	45	40	"
	雑用 "	"	1	$\frac{120 \times 150}{200}$	30 ^{M³/H} × 6 ^{kg/cm²}	(8.5)	35	45	90	80	"
	発電機	強圧注油式單汽筒	1	200 ^φ × 1600	125 ^{kw} 105V	8.5	45	50			
	送風機	"	1	150 × 130	400M ³ /Hr	8.5	45	60			C型標準
反揚機械	二筒式	1	120 × 130			8.5	25	35			"
補機名		型式	数	寸 法	力 量	蒸気圧力	蒸気管径	排水管径	吸入管径	吐出管径	備考
補助復水器		表面式	1		CS 40M ²						
給水加熱器		觸面式	1		HS 11M ²						
給水流器		カスケード	1	1400 × 900 × 950	1.3 M ³						
機械名		型式	数	寸 法	力 量	蒸気圧力	蒸気管径	排水管径	吸入管径	吐出管径	備考
甲板機械	操舵機	空 型	1	190 × 190	2.5 T-M	8.5	50	60			
	揚錨機	= 汽筒式	1	230 × 280	57 HP	"	60	70			C型標準
	4700kg/インチ	= 汽筒 = 後駆力	1	180 × 300	40 HP	"	45	50			
	揚貨機	"	4	200 × 300	5 T.	"	"	"			C型標準
	"	"	4	180 × 300	3 T.	"	"	"			
"	"	2	180 × 300	3 T.	"	40	"			載重用	

旅客及乗組員数		機 関 部	
1 旅客	吉	0	速力及燃料消費量等
	日		公試最強速力 (節)
	金		10.5 浬
2 甲板部員	金		航海速力
船 長	金	1	石炭消費量(経済) (噸/日)
一 選		1	航續距離 (浬)
二 "		1	6,000
三 " 及見習		1	
水夫長		1	
火 工	金 1	1	
水 夫	金 5	6	
舵 夫		4	
計		16	
ハ 機関部員			
機関長		1	
一 機		1	
二 " 及見習	三機 1	1	
火夫長		1	
火 夫	金 9	8	
油 差	金 2	4	
計	17	16	
ニ 事務部員			
無線局長		1	
✓ 貨物係	金 1	0	
司 厨 長	金 4	1	
艙夫及給仕		4	
計		6	
旅客及乗組員總計		38	

2

渡計常務

神功第一

部

按

企 畫 部

部

中



脚戸支店長

高橋

7

10

一說

昭和十七年

H

田澤	横山	田村	廣田	浅野
----	----	----	----	----

工務課

MAR 17 1942

心一併

一、日本海運協會審判送附ノ件

左記書類茲許同封御送附申上クルニ付御査収被下度

(六)

戰勝標旗 世宗皇帝 致討 金失乞 金
三 楊會 金由 哥 送 金 金失乞

造船係

吳工務部

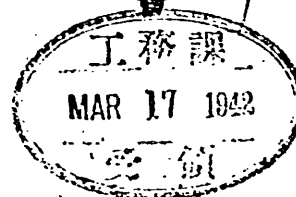
電話三宮(3) 一三八・六八〇・二九六〇・四三三〇
神戸市神戸區海岸通 日本郵船株式會社神戸支店

庶第九七號

昭和十七年三月十四日

日本海運協會

神協ア一五五号



政 策 委 員
海 務 委 員
協 議 會 出 席 者
各 位

拜啓陳者豫テ御審議ヲ煩ハシ候戰時標準型船舶（〇型）設計ニ關シテハ御意見ヲ取極メ理事會ニ報告ノ後答申書ヲ作成シテ河野事務理事之ヲ携行シ當協會生野顧問同伴海務院ニ於テ渡邊船舶部長・加藤造船課長其ノ他關係官並ニ梅村造船所主任者ト詳細打合セ致候處海務院ノ意簡殆ト別紙ノ通決定セラレ候間其寫及當協會答申書寫各一部爲御參考拜送旁本件ニ關シ多大ノ御協力ヲ相煩シ候段御禮申述候

敬 具



三月七日附戰時標準船ノ設計ニ關スル答申各項目ニ對シ海務院關係官、擔任造船所主任者並ニ當協會側打合決定事項

一、三項目共承認設計變更ヲナスベシ之ガ爲ニハ灰捨場ヲ横置炭庫内ニ設クルコトナルベシ

二、「デリツク」ノ位置變更ニ付テ檢討スベシ一ノ結果左舷通風管ハ後方ニ移動可能トナレリ

三、船尾形狀ハB、D、等他ノ型ニ於テモ同様ナルヲ以テ〇ニ付テノミ變更スルコト困難ナリ依テ全般的問題トシ研究ノコトトス

四、「アングーブリツジ」各室ノ舷窓ノ數ハ研究ノ上考慮スベシ通路ニ通風管二個ヲ増設ス下部甲板ハ「コンボジヨン」塗トナレルヲ木甲板張トナスベシ機關室空氣口ノ後方ニ仕切板ヲ設クルコトヲ考慮スベシ

五、艙口寸法ハ長サニ付テハ變更不可能、幅ニ付テハ縮少セザル限り統一スルコト不可能ナルヲ以テ現在通りトシ他ノ點ニ於テ出來得ル限り答申ノ趣旨ニ添フコトニスベシ

六、「デリツク」ノ長サハ「レスト」ノ關係上變更困難ナリ

七、内部船室ノ採光ノ爲實現困難ナルヲ以テ他ノ方法ヲ以テ答申ノ趣旨ニ添フ様考慮スベシ

八、測度規則ヲ研究ノ上之ニ抵觸セザル限り答申ノ通りナスベシ

九、現在ノモノ一二〇立方呎以上ノ容積アリ

其ノ他

(イ)

重量噸ノ増加、貨物容積ノ減少（「シーア」ノ減少並ニ船尾艙

「バラストタンク」増設ノ結果）ニ付テハ變更困難ナルモ船價

公定ノ際之ヲ考慮ニ入ルルコトトス

(ロ)

清水「タンク」ヲ作附トナスコトヲ考慮スベシ

(ハ)

無線方向探知機ハ備附ノコトニ決定ス

(ニ)

「コーリングポート」設置ニ付考慮スベシ

庶第八三號

昭和十七年三月七日

日本海運協會

理事長 大谷

登

海 院 院

船舶部長 渡 邊

浩 殿

戰時標準船ノ設計ニ關スル件

本件ニ關シ二月十七日附海船舶第三〇二號ヲ以テ御内示ノ趣敬承仕候當協會ニ於テ慎重審議ノ結果左記ノ通意見決定致候間何卒御採納被下度及答申候

敬 具

記

一、税關吏、水先案内等ノ爲定員二名位ノ豫備室ヲ設クルコト

海軍省令第三八號ニ依ル次席無線通信士ソ爲別室ヲ設ケ「ベツト」二個ヲ備

フルコト

火夫ノ「ベツト」一個ヲ増設スルコト

二、採炭用「デリツキ」ト通風管トノ各設置場所ノ相互關係ヲ變更シ該「デリツ

キ」使用ノトキ之ガ通風管ニ接觸セザル様スルコト

三、船尾ノ形狀ヲ普通型トシ繫船用索ノ磨滅切斷ヲ防止スルコト

四、船員室ノ通風及防熱竝ニ機關室ノ通風ニ考慮ヲ拂フコト

五、艙口ノ寸法ハ事情ノ許ス限り大ナル方ヲ基準トシテ統制シ「ビーム」及「ハ

ツチ、ボード」等ヲ相互使用シ得ル様ニ爲スコト

六「デリツヤ」ノ長サハ事情ノ許ス限り長キ方ヲ基準トシテ一〇噸用及五噸用ヲ夫々同一ニ爲シテ其ノ内ノ一本ニ故障ヲ生ジタル場合便宜取換ヘ得ル様ニスルコト

七船橋樓甲板兩舷「ブルワイク」ノ上部切取りヲ稍後部ニ移シ石炭搭載ノ際支障ナカラシムルコト

八船橋樓ノ後端出入口ノ下部三分ノ一ノ高サ迄「スチールドアー」ヲ附シ海水ノ浸入ヲ防止スルコト

九冷蔵庫ノ容積ハ一二〇立方呎以上タラシムベキコト

其ノ他

若シ本船ガ主トシテ南方航路ニ配船セラル、豫定ナラバ右事項中(四)ハ最も重要ナル問題ナリ、其ノ他要目表無線裝置ニ方向探知機(船舶保護法第三條ニ依ル指示事項)ヲ要スルコト

以上

報
告

(七)

戰時標準鑽石船(五型)ノ件

頭書戰時標準鑽石船ノ建造註文決定主ハ神戸ヨリモ東京ニ多キトノ理由ニテ本型船ニ對スル委員會ハ東京ニ於テ開催セラルル事トナリ第一回ヲ去ル五月八日ニ日本海運協會東京支部分室ニ於テ開カレ別紙ノ通り一應意見ヲ纏メ其後要目表記有アリ更ニ本月十四日第二回ノ會合ヲナシ追加希望ヲ附記特別委員會ノ意見トシテ神戸本部ニ送附シ海務委員會並ニ理事會ニ諮リ海務院ヘノ答申案作製ノ事トナレリ

添附

戰時標準鑽石船一般配置圖

戰時標準船五型要目

昭和十七年五月二十日



電話九ノヲ、代表者 三三二一 二三三二
三三二一 二三三二 留真用
東京市丸ノ内 日本郵船株式會社

6030

Ms 3

特別委員會（第一回）意見書
特別委員會（第二回）意見書

2 止

IS (37) 3-17)

アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp/>

戰時標準船K型要目

長	幅 (型)	深 (型)	滿載吃水	資格及航行區域	總噸數	載貨重量	速力	航海時	試運轉時	主機	三聯成汽機	經濟 (圖示) 馬力	定格 (圖示)	最大 (圖示)	同轉數 (每分) 經濟
一二〇。〇〇米	一六。五〇	九。五〇	七。五〇	第一級 近海區域	約五、三〇〇噸	約七、九〇〇	約一〇。五節	約一四。〇	約一四。〇	一台	一、七五〇	二、一〇〇	二、九六〇	八一	

主汽機	三菱乾熱室圓機（三號機）	三機
發電機	蒸汽機並直結 一五キロワット （直流一五〇ボルト）	二台
揚鑄機	汽動	一台
揚貨機	一八〇×三〇〇耗	八台
揚炭機	一八〇×三〇〇	二台
纜捲機	二〇〇×三〇〇	一台
操舵機	（リモーター付）	一台
デリックブーム（鋼製）	五機	八本
電燈設備		二本
電扇設備		有
電鈴設備		有
無線電信装置		有
送信装置	空中線電力五〇〇ワット長中波及短波	

主發振電力增幅式主裝置及五〇ワット	主發振式變壓裝置	中長波及短波受信裝置	スーバーヘテロダイン受信裝置	電動測深機	電動冷却機	消火設備	暖房設備	賄室設備	浴室設備	石炭庫容量	清水艙容量	養蠶水艙	飲料水艙
一式	一式	一式	一式	一台	一台	蒸汽	蒸汽	蒸汽及石炭	蒸汽	(一) 二五立方米ヲ一應トス (二) 一立方米ヲ一應トス	一二六應	三〇〇	三〇〇

8190

清水
繪

一二六
應

以

上

中

秘 込 綴

海防 第二五号	昭和十八年五月三日	統制係
寺井久信 殿	日本海運協会	八、五、五 貨物部要付ノキ
才松自油槽船年令合議事送附ノ件	ニ依リ寫作成	
相諮合御隆号ニ後奉答候		
陣者首題ニ関シ別紙直議事御送附申上候内		
御查收相成度候		
長	シ	
長	ス	
造船係		
造船係		
別紙		

東京市丸ノ内 日本郵船株式會社

電話 内 (23) 代表電話 二五二二 二五三二 二五三四 省口兼用

()

Printed in Japan

身拾回油槽船委員会録事									
四月二十日 早海運協会合議室にて開催									
出席者 拾七名									
開会 午後二時 閉会 午後三時									
議長 鈴木幸吉氏									
議事 改下し型油槽船ニ関シ艦政本部ニ於テ打合会									
経過報告、件									
四月八日艦政本部ニ於テ開催セラレタル 改下し型油槽船設計									
打合会、経過大要ニ就テ小林係長ヨリ、始メ報告セリ									
一、牧野技術中佐ヨリ 改下し型ハ三菱長崎造船所ノ設計									
ニ係ルモノニテ 船体性能等 改型船中、最優秀ノ船ニテ									
二、原油・重油輸送力ヲ主目的トスルモノナリ									
三、設計機索者 三菱造船計技師ヨリ 改下し型要目表									
(添付別紙、通シ)									

電話、ノ内 (23) 代表電話 二五二二 二五三一 二五三四 宿直電話
東京市丸ノ内 日本郵船株式会社

Printed in Japan

(1997 3-11)

一 船機装圖・中央横載面圖・油密隔壁圖・縦圖・及摘要表 (トリー・鷹力記載(一)ヲ提示シ夫々ニ就テ概略ノ説明アリ)									
三 改丁シ型油槽船簡易化セシクル要点在リ如シ									
(1) 船体 無肘板式縦通構造									
(2) 舷弧 梁矢 ナシ									
(3) 横油密隔壁ハ中央・両翼油槽共通・油槽數ハ計拾貳ニテ 唧筒室・前部ニ中央油槽ニ 船油槽ニ 船油槽ニ 唧筒室・後部ニ同様ナリ									
(4) 油槽配置									
(1) 第一・第二油槽内横隔壁ニ仕切弁ヲ設ケ・第一油槽ノ油取入・取出ハ第一油槽ヲ通シテ 唧筒室横隔壁際ニ吸油口ヲ有スル 吸油主管ニヨリ行フ									
(第二・第三油槽ニ同様式ニ依ル)									

()

Printed in Japan

(1001 3-14)

(1) 各油槽内ニ別ニ吸油管設ケ之ヲ 唧筒室内ニ吸油	主管ニ連絡シ、強油吸入ヲス	(5) 艀部、防油室所 (マアーク) 無ク、燃料油	槽ヲ以テ之ニ代フ	(6) 最大馬力 五、〇〇〇馬力	正帯馬力 四、五〇〇 "	經濟馬力 四、〇〇〇 "	(7) フリユーカス 裝置ナシ	四、前三項ニ因聯セル打合会席上ニ於ケル 艀間、應答ノ	主ナルモノ方ノ如シ	艀 本艀、燃料油消費量ハ何程ナリヤ	答 一畫箱 約四卷ニナリ	問 艀續距離ハ、一哩ニ對シ 燃料油艀容量、	二、一〇〇立方米ハ 較々 適大ナラスヤ
----------------------------	---------------	---------------------------	----------	------------------	--------------	--------------	-----------------	----------------------------	-----------	-------------------	--------------	-----------------------	---------------------

電話ノ内 (23) 代表電話 二五二一 二五三二 二五三四 留直線用
東京市丸ノ内 日本郵船株式會社

Printed in Japan

答	然り汽機室、左右両舷ニル舷側燃料油槽、ニミ座
問	即部以止る倉庫ニ構棟置る可トス
答	経済馬力四〇〇〇馬力ニテ搭載速力一三ノ節ト生し 得ルヤ
答	一三ノ節ハ平均速力ニテトナリナリナリ 尙本部主機ハ通常馬力四五〇馬力ヲ常時使用 スルニ支障ナシ
問	艀部、防油室所ナシ
答	従来、油槽始ニ在ルカーゴ、ホールト止メ、此の部ナリ ニ室所トス
問	横隔壁ニ設クル仕切扉、ハ艀部ニ寄リテ強固備 トシテ、更ニ、一個ヲ設クルガ、余、ノ主要部ヲ不損毀 シ主属トスルカ致セリ
答	仕切扉、開閉ハ艀部輕便ニ行フ事トナル故、余、ノ

()

Printed in Japan

(1000 3-11)

年如一日

Printed in Japan

()

(1007 3-14)

1290

Mis 1

甲板内高サ	二、七〇 米
第一甲板ト上甲板内	三、三〇 米
上甲板ト船樓甲板内	二、三〇 米
上甲板ト船樓甲板内	二、三〇 米
船舷及梁矢	十レ
総噸數	約 一〇、一〇〇 噸
滿載吃水 (龍骨上高サ)	九、〇〇 米
滿載排水量	二一、〇八〇 噸
載貨重量	約 一六、〇〇〇 噸
滿載速力	一三、一〇 節
試運轉最強速力	一五、五 節
航程距離	八、〇〇〇 哩

電話サノ内 (23) 代表電話 二五二一 二五三二 二五三四 宿直線用
東京市丸ノ内 日本郵船株式會社

()

Printed in Japan

(129) 3-115

アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp/>

Bills 1

()

Printed in Japan

(10) 3-14)